



外国人児童生徒教育に係る 外部支援員等研修テキスト

—効果的な日本語指導のための支援の進め方—

三重県教育委員会

はじめに

県内の公立小中学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒数は、平成25年9月1日現在の調査によると、1,701人となり、前年度同期より182人の増加となっています。一方で、当該児童生徒が在籍する小中学校の数は231校となり、県内の約4割の学校に在籍していることとなります。

このような状況のもと、県教育委員会では、外国人児童生徒教育の一層の充実に向け、3つの段階に応じた取組を進めています。

第1段階は、外国人児童生徒の受入体制を整備することです。そのために、外国人児童生徒の学校への在籍が多い地域で実施されている初期適応教室の取組や学校での受け入れ体制整備に係る取組を支援するとともに、現状において学校への在籍の少ないあるいは在籍のない地域についても、外国人児童生徒教育担当者の研修を開催するなどして、今後の受け入れに向けた支援を行っています。

第2段階は、日本語指導や学校生活への適応指導の充実です。そのために、外国人児童生徒への日本語指導や保護者への通訳等を行う巡回相談員を学校に派遣や電話及びインターネットメールによる相談等に対応する専門員の配置により、市町教育委員会と連携した取組を進めています。

第3段階は、学習言語としての日本語の習得を支援することです。そのために、外国人児童生徒の学校への在籍の多い地域において、日本語で学ぶ力の育成を目指した教科の授業実践の研究を進めています。

今後、こうした取組をさらに充実させるにあたっては、地域での連携体制づくりが不可欠であり、地域における外部人材を活用した支援員（日本語指導協力者、学習支援ボランティア、通訳など）の確保とその資質の向上は、今後の外国人児童生徒教育の充実に向けての大変重要なポイントであるにとらえています

本テキストは、各学校ですでに勤務している支援員の方やこれから活躍が期待される方を対象とした研修における研修用の資料として作成いたしました。今後、市町教育委員会において本テキストを有効に活用していただき、きめ細かな日本語指導や効果的な適応指導等の一層の充実を図っていただくことを期待しております。

なお、本テキストの作成にあたり、多大なご協力をいただきました国際交流センター日本語教師養成講座講師、伊賀日本語の会テクニカル・アドバイザーの船見和秀先生に感謝いたします。

目 次

はじめに

第1章 やさしい日本語とは

- 【1】 「ある授業風景」から・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 【2】 ティーチャートークとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 【3】 理解を妨げるもの
- 【4】 分かりやすく話すポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 【5】 コミュニケーションを上手く図るには・・・・・・・・・・ 7

第2章 日本語指導の基礎

- 【1】 授業の組み立て・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 【2】 文型の導入と練習・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

第3章 取り出し授業における留意点

- 【1】 取り出し授業のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 【2】 取り出し授業における具体的なアドバイス・・・・・・・・ 14

第4章 在籍学級での教科指導等における留意点

- 【1】 母語による通訳から日本語による支援への移行・・・・・・・・ 16
- 【2】 次回の指導に生かすための板書や発言のノートへの記録・・・・ 17
- 【3】 教科学習に必要な日本語表現の分析と取り出し授業での活用

第5章 外国人児童生徒教育コーディネーターの視点から伝えたいこと

- 【1】 “全ての教師が日本語教師” という意識で・・・・・・・・・・ 18
- 【2】 「場面シラバス」「機能シラバス」の観点から
- 【3】 理解の確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 【4】 単語の獲得・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 【5】 周囲の子どもたちへの啓発・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

解答編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

※本テキストにおける「外国人児童生徒」という言葉は、外国籍の児童生徒だけでなく、日本国籍であっても文化的背景やルーツが外国にある児童生徒も視野に入れて使用します。

だい しょう にほんご
第1章 やさしい日本語とは

だい しょう にほんご
第1章 やさしい日本語とは

※この章は、DVD視聴用テキスト：どこでもだれでも日本語指導「日本語指導の基礎」
第2巻：「伝わりやすい日本語を使いましょう」(ティーチャートーク)をもとにしています。

【1】 「ある授業風景」から



せんせい がいこくじん せいと せつめい
先生が外国人の生徒に説明をしています。
なぜ、伝わりにくくなっているのか、考えてみましょう。

れい 1 > (場面のスクリプト：先生が外国籍の生徒に説明をしています。)

教師：はい。今日の授業、終わります。 今日、終わりね。 はい、よくできました。

きょう げんめ うんどうかい れんしゅう あめふ
今日の5限目の運動会の練習のことやねんけど、さっきから、雨降ってきたやんか。

うんどうじょう つか たいいくかん へんこう
だから、運動場、使えへんねんか。 それで、体育館に変更なっせん。

いま きゅうしょく た きゅうしょく た きが
みんな、今から給食、食べるやん。 給食食べたら、すぐ着替えて、そして、

たいいくかん も たいいくかん は なら
体育館シューズ持って、体育館に入って、ちゃんと並んでって、クラスのみんなに、

い
言うといてほしねん。 ほな、そういうことやねん。

わ ねが
分かった(?) わかったなあ(?) ほな、お願いね。

● 問1 にほんご ぼご ひと はな とき はな かた
日本語を母語としない人と話す時に、どのような話し方をしていますか。

いっしょうけんめい った
一生懸命に伝えようとして

→ (1) _____

→ (2) _____

→ (3) _____

【2】ティーチャートークとは

●問2 ティーチャートークとは、どんな話し方のことですか。

- ・教師が学習者に対して行う文型や語彙面に配慮した独特の話し方。
=学習者の日本語能力を考えた上で、(①)や(②)を選びながら話す技術。
- ・外国につながりを持つ子どもに日本語指導や教科指導を行う上で非常に重要なスキル。
- ・ティーチャートークの意識しだいで、学習者の理解に大きなちがいが出てくる。

【3】理解を妨げるもの・・・

1. 待遇度（丁寧さの度合い）が高い表現

＜例 2＞

学習者の保護者と話す時、「お忙しいとは存じますが、一度学校の方へ来ていただけると当方としましてもありがたいのですが・・・。」

・聞き手が日本人や日本語能力が非常に高い外国人の場合は、これでよいでしょう。

しかし、日本語の理解度があまり高くない外国人は、これで理解できるでしょうか。

●問3 どんなことが分かりにくいのでしょうか。

→ (①) 語や (②) 語を使うと分かりにくい日本語になってしまう。

●問4 例2の文を伝えるように言い換えてみましょう。

知らず知らずのうちに、子どもからの質問・疑問に対して、つい余計な“言語情報”を付け加えて話をしていることはないでしょうか？



2. フィラーを無意識に多用する

<例 3>

日本語指導の授業で学習者にレポート

させるため、教科書を読み上げるとき、

T:「えー、わたしは えー、ブラジル人の えー、サントスです。」じゃ、Aさん読んで。

L:「えー、わたしは えー、ブラジル人の えー、サントスです。」

フィラーとは、話をつなぐ時に出す「あー、えー、あの一」などのことです。



・フィラーもまねてレポートしてしまい、それが正しい形として記憶される可能性もある。

・特に初級レベルの日本語指導を行う場合は、余分なフィラーに注意するなど、自分の

話し方の癖を見直すことが大切です。

3. 接続表現（複文）を多用する



たくさんの文をつなげて一度に話すと分かりにくいです。
なるべく、単文（主語と述語が1組だけ出てくる文）で話すようにしましょう。

<例 4>

「今からテストをするから、机の上は鉛筆と消しゴムだけにして、隣の人としゃべる

をやめて、黒板に書かれた注意をよく読みながら、試験開始までしばらく待つように。」

●問5 例4の文を伝えるように言い換えてみましょう。

4. 地域方言

【視点】

・話し言葉と並行して身に付ける書き言葉として

の日本語は“いわゆる共通語”で書かれたもの。

・基本的なコミュニケーションが共通語でできるようになってから、バリエーションの一つとして

地域方言が話せるようになるのが良い。

方言を使うこと自体を否定は
しません。しかし、特に初級の
学習者の場合、テキストに出てくる
日本語を覚えることが後の教科
学習につながります。



<例 5>

ブルーノさん、明日な、雨がな、降ってしもたらな、運動会、明日中止になるやん。

ほんでもって、給食はあらへんから、〇〇くんにな、弁当はもってこやなあかんねん

でって言うの忘れんといてや。

●問6 例5の文を伝えるように言い換えてみましょう。

5. 漢語語彙の使用：初級レベルの学習者（非漢字圏）には難しい。

<例 6> [プリントでよく使われる用語] 提出期限厳守

・ルビが振ってあっても意味が分からない。表現自体を変えて書く必要がある。

●問7 例6の言葉を伝えるように言い換えてみましょう。

れい 7 > [校内放送で]

らいねんど せいとかいやくいんりつこうほよていしゃ ごごじ せいとかいやくいんしつ しゅうごう
来年度の生徒会役員立候補予定者は午後3時、生徒会役員室に集合のこと。

● 問8 例7を伝えるように言い換えてみましょう。

わ はな
【4】分かりやすく話すポイント

れい 8 >

① 「パウロさんさあ、これなあ、

りかしつ はこ てつだ
理科室へ運ぶの手伝ってくれたら、うれしいなあ」

② 「カバンに入っている昨日一緒に練習した漢字の

だ
ノートを出してください」

がくしゅうしゃ こ
学習者（子どもたち）が
りかい ぶんけい こい
理解できる文型・語彙・スピー
ドで話すよう心がけましょう。
ほごしゃ はな ぼあい おな
保護者と話す場合も同
じです。



● 問9 例8の①、②の文を未習の文型・単語を使わないようにして、わかりやすく言い換えてみましょう。

① ⇒ -----

② ⇒ -----

<例 9>

① [電話で保護者に対して...] 明日 (みょうにち)、放課後、ご自宅を訪問させていただきました。
たいのですが。

② [教室での説明で...] 次週土曜日は授業参観となっております。よって、弁当持参。
このクラスは体育だから、雨天の場合、体育館で実施します。

③ [外国人向け入学説明会などでの挨拶で...] 「梅のつぼみも膨らみかけ、春の足音も聞こえてくる季節となりました。大変ご多忙の中、ご出席をいただきまして、ありがとうございます。」

●問10 例9の①～③の文を難解な語彙をやさしい言葉や表現で置き換え、わかりやすく言い換えてみましょう。

① ⇒ _____

② ⇒ _____

③ ⇒ _____

【5】コミュニケーションを上手く図るには

●問11 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの割合は、どれくらいだと思いますか。

言語コミュニケーション 約 _____ %

非言語コミュニケーション 約 _____ %

・言語だけでなく非言語コミュニケーションを使う。

・顔の表情・身振り手振り・声のトーンなどを

使って伝えることが大切です。

・学習者の母語の活用することにより、学習者の

母語能力が高い場合、教師が学習者の母語の理解

に努めることで、お互いに歩み寄りのあるコミュ

ニケーションを図ることができる。

・教師が学習者の母語を一部でもいいので使ってみる。

・各言語でクラスの児童生徒が挨拶を試してみる。

言葉以外の方法を上手く
使うと、コミュニケーションを
しやすくなります。



第1章のまとめ ティーチャートークは重要なスキルである。

- ① 学習者が分からない文型・単語を使わない。
- ② 難しい語彙をやさしい言葉や言い方にする。
- ③ 言葉ではないコミュニケーション方法（絵・写真・図など）で伝える。
- ④ ゆっくりと、はっきりと。
- ⑤ 大切なところは、くり返す。

だい しょう にほんご しどう きそ
第2章 日本語指導の基礎

第2章 日本語指導の基礎

※この章では、DVD視聴用テキスト：どこでもだれでも日本語指導「日本語指導の基礎」

第3巻：「日本語指導の基礎」（「日本語教材の特徴」「授業の組み立て」）をもとにして、『新

版 いっしょにまなぼう みえこさんのにほんご』の活用方法について解説します。

【1】授業の組み立て

※P32・33 7かここはたいいくかんです。

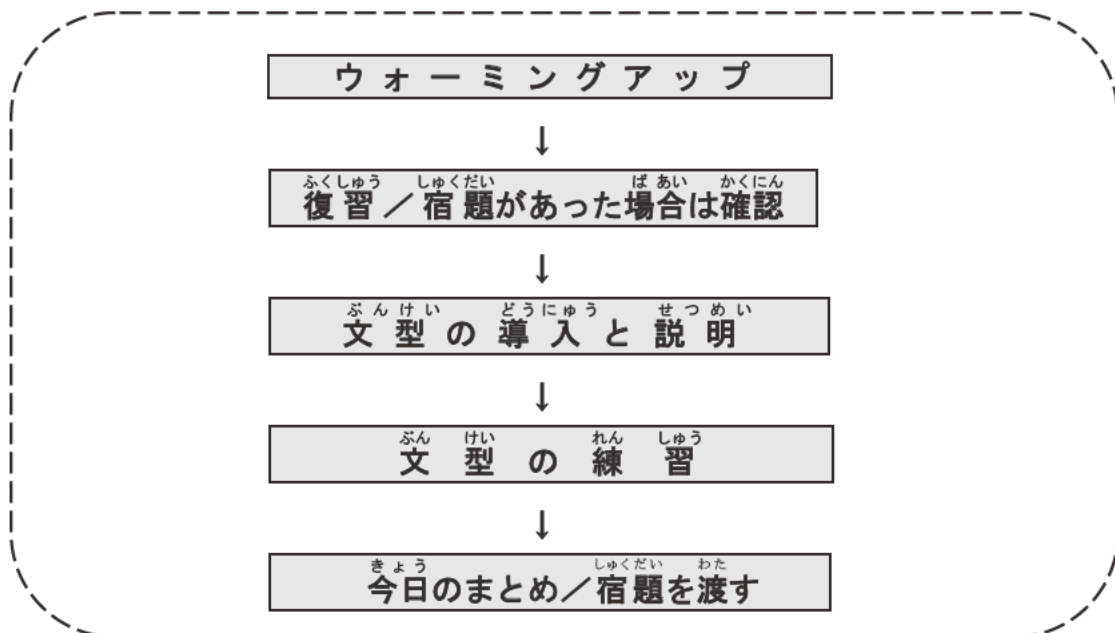
<あまり良くない例>

- 初めてこの課を学習する子どもに、いきなりテキストを読ませる。
- 学習者が読めているので、意味も理解できているのだと教師が勘違いして、『れんしゅうちょう2』へ移行していく。

文字をたどって読めることと、意味が理解できることとは別です。



一般的な授業の流れ



【2】^{ぶんけい}文型の^{どうにゆう}導入と^{れんしゆう}練習

※P92 25か みえこさんは どこに いますか

「^{みえこさん}は ^{どこに} ^{いますか。}」の^{ぶんせき}分析

- ① ^{こうていぶん}肯定文「^{～が} ^{います。}」の^{どうにゆう}導入
 - ② 「^{います／あります}」の^{つか}使い分けの^わ説明^{せつめい}
 - ③ ^{きしゆう}既習の^{めいし}名詞の^{かくにん}確認
 - ④ ^{しんしゅつたんご}新出単語の^{どうにゆう}導入〔^{もの}物の^{めいし}名詞・^{ばしょ}場所と^{ほうこう}方向の^{ことば}言葉〕
- ⇒ ^{だんかいづ}このような^{てじゆん}段階付けされた^{ひつよう}手順が必要になる。

^{ぶんけい}文型とは、^{だれ}誰が^{つか}使っても
^か変わらない^{ぶん}文の^{ほねぐみ}骨組の
ことです。



〔^{テキスト}の^{れいぶん}例文〕 ^{みえこさん}は どこに いますか。

_____は _____に います。

_____は _____に あります。

よって、25課で ^か最初に^{さいしよしよ}学ぶ^{まな}文型は「_____は _____に います。」

つまり、^{ひと}人や^{どうぶつ}動物の^{そんざい}存在を表す^{あらわ}文型です。

つぎに、P94で「_____は _____に あります。」を^{まな}学ぶ。



^{ぎもんし}疑問詞が入った^は疑問文
^{ぎもんぶん}を^{はつわ}発話するには^{こうていぶん}肯定文
^いが^{ぜんてい}言えることが^{ぜんてい}前提と
なります。

1. ^え絵を使った^{どうにゆう}導入

- ① ^{きょうし}教師が^{おこな}行う^{はつわ}モデル^{ぜんたい}発話と^{しじ}全体^{しじ}コーラスの^{しじ}指示
- ② ^{ばんしょ}板書の^{レイアウト}
- ③ ^え絵で^{たんご}単語の^{かくにん}確認
- ④ ^{だいにゆうれんしゆう}代入^{れんしゆう}練習

・^{ぐたいけい}具体例を^{おお}多く^{しめ}示すことで、^{がくしゆうしや}学習者に^{ぶんけい}文型の^{いみ}意味を^{つた}伝える。

これが^{にほんご}日本語^{おし}だけで^{ばあい}教えていく^{どうにゆうれい}場合の^{おし}導入例です。

「^{います}」と「^{あります}」の
^{ちが}違いを^{つた}伝えるには、^え絵を^{つか}使った
^{どうにゆう}導入が^{こうかてき}効果的です。そのための
^{ひだり}ポイントは^{ひだり}左の4つです。



2. 文型の練習

※『みえこさんの にほんご 指導のアクセス』参照

① 正確さのための練習

繰り返し、代わり、代入、応答、変換、拡大

⇒ ・機械的なものなので、子どもは飽きてしまうこともある。

⇒ ・長時間行うことは避けたほうが良い。

② なめらかさのための練習

教師が学習者に練習の手順やルールを説明します。

⇒ ・学習者はそれに沿って自ら考え状況に応じた日本語を使う。

3. 詳しい練習の方法

『新版いっしょにまなぼう みえこさんの にほんご 指導のアクセス』P11～17

【6. いろいろな練習方法】を参照してみてください。

第2章まとめ 日本語のテキストには、教え方がある。

① 文字をたどって読める ≠ 意味の理解

② 「導入 → 練習」の流れを作る。

③ 多様な練習を組み合わせる。

だい しょう と だ じゅぎょう りゅう い てん
第3章 取り出し授業における留意点

※ この章は、『外国人児童生徒教育推進のためのガイドライン』P15～18をもとにしています。

【1】取り出し授業のポイント

- ① 在籍学級での学習の先行学習か復習なのかなど、取り出し授業の目的を明確にする。
 - ・ 初期適応のための日本語指導を行う目的で取り出すのか、または日本語のレベルは高いので、教科学習の補充を目的に取り出すのかを明確にする。
- ② 初期適応のための日本語指導を行う場合、効率的に進められるようなカリキュラムを作成する。
 - ・ 初級前半レベルの日本語指導に時間をかけ過ぎるのは、良くない。
 - ・ 初級前半レベルの日本語指導と並行して、学年相応の教科学習または、理解度によって学年をさかのぼって教科学習も進めていく。
- ③ 基本的に母学級で教科学習に参加している児童生徒に対して取り出し授業を行う場合、各教科の内容理解に軸を置きつつ、教科内容を理解するために必要な高い日本語能力の習得を目指す。
 - ・ 指導する方の役割：教科書・プリント・問題集の中の日本語表現や語彙を分析する。
- ④ 在籍学級の授業と連携を図る。
 - ・ 学習記録をつける。
 - ・ 担任の先生、日本語指導にあたる方、教科担当の先生で相談して、どの教科を週に何コマ取り出すのかを決める。

と だ や じ き はんだん きょうしつ つうじょうじゅぎょう さん か じ き き もど
 ・取り出しを止める時期を判断する。教室で通常授業に参加できる時期が来たら、戻
 して自律学習を促す。

きょう か たんどう せんせい り かい あしぼづく やく
 ・教科担当の先生は、スキヤフオールディング（「理解のための足場作り」と訳される）
 を心がけた授業構成を考え、参加できる時間帯を増やす。

かんたん れい
 <簡単なスキヤフオールディングの例>

きょう かしよ ふ
 ＊教科書やプリントにルビを振る。

ことば たよ せつめい ところ
 ＊言葉に頼らない説明を心がける。

も じ おお ぎょうかん もう
 ＊プリントの文字は大きくし、行間をゆったり設ける。

きわだ こうもく いろ ひ
 ＊際立たせたい項目に色をつけたり、アンダーラインを引いたりする。

ゲームやアクティビ
 ティを取り入れるの
 もその1つですね。



つうじょう じゅぎょう う と き ぼ がつきゅう す と き
 ・通常の授業を受けている時やホームルームなど母学級で過ごしている時、どのよ

うな日本語が理解しにくいのかを観察・記録しておき、日本語指導を実際に行って

いる人に伝え、取り出し授業や入り込み授業に活かす。

⑤ 母語の使用は最小限にする。（適切な場面で適切な量で使用）

にほんご にほんご おし ほうほう ちよくせつほう きほん じゅぎょう おこな
 ・日本語で日本語を教えていく方法（直接法）を基本として授業を行う。

にほんご つか とお きのうほうてき りかい じどうせいと ぼご
 ・日本語を使うことを通して、帰納法的に理解させていく。〔児童生徒の母語ができな
 くても日本語指導はできる。〕

ぐたいてき れいぶん はつわ か にほんご つか かた な
 ・具体的な例文をたくさん発話し、書くことで日本語の使い方に慣れていくようにする。

じゅぎょう さんかん み しえん れい
 ※授業を参観して、よく見かけた支援の例

がいぶ しえんいん にほんご ぼご わしゃ しんぱん
 外部支援員〔日本語を母語としない話者〕が『新版 みえこさんのにほんご』

を使って日本語を教えていたが、そこで話されているのは90%がポルトガル語

だった。母語に頼りすぎでは、子どもの日本語能力は伸びない。母語による解説

や逐語訳を行うことは、子どもの日本語能力の向上を妨げる場合があること

に留意すべきである。

⑥ ^{しょきゅう}初級 ^{にほんご しどう}レベルの日本語指導では、^{じゅぎょう}授業における^{しどうしゃ}指導者の^{はつわりょう}発話量と^{がくしゅうしゃ}学習者の^{ひりつ}比率は、3：7ぐらいになるように^{こころ}心がける。

※^{じゅぎょうかんさつ}授業観察に行くと、^い^{しどうしゃ}指導者ばかりが^{はな}話していて、^こ子どもたちはそれを^き聞いている^{じかん}時間が長い^{なが}光景を見かけます。^こ子どもの^{はつわりょう}発話量を^ふ増やす^{じゅぎょうこうせい}授業構成にする。

⑦ ^{がいこくじんじどうせい}外国人児童生徒が^{こんらん}混乱しないように、^{しよう}使用する^{きょうざい}テキストや^{とういつ}教材は統一する。

・^{にほんご}日本語の^と取り出し^だ授業を^{じゅぎょう}担当する^{たんどう}指導者が、^{しどうしゃ}その^{ときどき}時々^{おも}の^{しよう}思いつきにより、^{しよう}使用する^{しよう}テキストや^{おこな}プリントを^か変えて^{じゅぎょう}授業を^{おこな}行ってはいけない。

⑧ ^{みとお}見通しを立て^た計画的に^{けいかくてき}指導する。^{しどう}

・^{がつき}学期ごとの^{しどうけいかく}指導計画に基づく^{もと}日本語指導と^{にほんご しどう}教科学習^{きょうかがくしゅう}を行う。^{おこな}

・^{がくねん}学年の^お終わりには、^{にほんご}日本語^{はんてい}レベルの^{おこな}判定を行う。

・^{とく}特に、^{ちゅうがくせい}中学生の場合、^{ばあい}常に^{つね}高校入試から^{こうこうにゅうし}逆算して、^{ぎゃくさん}いつまでに^{なに}何を^み身につける^{ひつよう}必要があるのかを^{いしき}意識して^{しどう}指導にあたる。

【2】取り出し授業における具体的なアドバイス

① 勉強方法について語りましょう。

- ・持ち物には名前を書く。プリントをもらったら、その場ですぐに名前を書かせる。
- ・座る姿勢。正面を向いて座らせる。横向きに座って書くのはよくない。
- ・足を机の外へ出さない。
- ・鉛筆は授業前に削っておく。勝手に立ち歩かない。

※子どもとの心理的距離があまりにも近いと“なれあいの関係”になってしまいます。
信頼関係を築きながら、節度ある距離感で指導することが大切です。

② 文字指導は必ず意味のある練習で。

※ひらがな・カタカナ・漢字の指導で、ひたすら一文字を10回20回と書くのは、字体を覚えるには、有効かも知れませんが、運用能力を身につける観点からは、意味の無い練習です。

また、実際に授業観察でよく見た光景ですが

指導者：「今から漢字テストをするよ。私が言う漢字をノートに書いてね。」

「ト、ト。」

学習者：「??」

指導者：「ほら先週勉強した『ト』だよ。」

学習者：(ノートに『囗』と書いた。)

こうしたテストのやり方は、効果的であるとは言えません。

「トショカン」の「ト」は「戸」や「土」ではなく、絵を意味する漢字「囗」です。



例えば、「図書館へ行きました。」のような短い文の中で、どのように漢字が使われるのかを練習しなければ、漢字の学習とは言えません。

③ 「日本語ノート」の作成

- ・各教科で使うノート以外に1冊「日本語ノート」を作って、取り出し授業の時に持参させる。

ぼがつきゅう じゅぎょう う とき にほんご わ かんじ ひょうげん か と
・母学級で授業を受ける時も「日本語ノート」に分らない漢字や表現を書き留めるようにする。

→ 語彙・表現の獲得は自己管理していく意識付けをしたい。

ていどにほんごのうりょく み つ しょきゅうしゅうりょう ごと
・ある程度日本語能力が身に付いたら（初級終了レベル）、そこからは、語彙力を高めていくことが重要です。

にほんご た げんご くら かくとく ごと
日本語は他の言語に比べ、獲得しなければならない語彙
すう きわ おお げんご しょうがく ねんせい さい だんかい
数が極めて多い言語です。小学6年生 [12歳] の段階
にほんご ぼ ごわしゃ こ やく ごと
で日本語母語話者の子どもは、約26,000語を理解
ごと かくとく
語彙として獲得しています。



④ 授業は3部構成で行う。

じゅぎょう かんさつ い きょう かんじ べんきょう こ ていあん ふんかん
・授業観察に行つて、「今日は漢字の勉強をしましょう。」と子どもに提案し、45分間
ずっと漢字だけを学習している姿を見ました。同じスキルだけを使う言語学習で
は、子どもは飽きてしまいます。

にほんご ぎのう はな き よ か うまく あ ふん
・日本語の4技能（話す・聞く・読む・書く）を上手く組み合わせ、およそ15分を一
つのユニットとして、一コマを3部構成にする教案を考えるようにします。

第3章まとめ 目的と目標のある取り出し授業を行う。

① 日本語指導では、子どもの発話を多くする。

② 意味のある練習を心がける。

だい しょう ざいせきがっきゅう きょう か しどうとう りゅう い てん
第4章 在籍学級での教科指導等における留意点

【1】 ぼご ふうやく にほんご しえん いこう
 母語による通訳から日本語による支援への移行

- ① にほんご しょう ざいせきがつきゅう だんかい ないよう りかい つくえ よこ せんせい はつわ ない
 日本語レベルが初級前半の段階では、内容を理解するために机の横で先生の発話内
 よう ばんしょ ないよう すべ ほんやく つた ひつよう
 容・板書内容を全て翻訳して伝えることは必要です。
- ② ①のような支援を続けることは、日本語で教科学習に取り組むことの妨げになってし
 まうことがある。
- ③ こ 子どもの日本語レベルを見て、“やさしい日本語(子どもが理解可能な日本語)”による支
 えん ころ
 援を心がける。
- ④ にほんご きょうか がくしゅう ぐたいき しえん ころ
 日本語で教科学習をしていくための具体的な支援を心がける。
- ⑤ こ 子どもの板書をノートに書くように指示する。
- ⑥ せんせい はな はじ き しじ とき こ せんせい はなし しゅうちゅう
 先生が話し始めたら、聞くように指示する。その時、子どもが先生の話に集中できる
 し えんしゃ はな
 ように支援者は話しかけないようにする。
- ⑦ じどうせい と じしん きょうか しょ もんだいしゅう わ かんじ ふ
 児童生徒自身に教科書・問題集などで分からない漢字にルビを振らせる。
- ⑧ きしゅう にほんご ぶんけい ひょうげん
 既習の日本語文型で表現する。
- ⑨ なんかい かんじ ごい い か
 難解な漢字語彙は言い換える。

例) ちょうさ じっし → しら 「調べます」
 こうさつ きにゅう → おも かんが か 「思ったことや考えたことを書きます」

- ⑩ しょうきゅう こ ふくぶん たんぶん い か
 初級レベルの子どもには、複文を単文に言い換える。

【2】 次回の指導に生かすための外部支援員が板書や発言のノートへの記録

- ① 授業の中で外国人児童生徒に配布されるプリントを一部もらい、支援のときに活用する。
- ② 子どもに教科の内容を教えるためには、まず支援者が教科の内容を理解しておく必要がある。
- ③ 教科の担当の先生が使っている日本語は、子どもにとって理解しやすい日本語になっているのか分析する。
- ③ 理解の困難点を見つけた場合、気をつけるべき表現・単語・説明方法などを伝え、指導者と外部支援員がお互いに授業改善を図っていく。

【3】 教科学習に必要な日本語表現の分析と取り出し授業での活用

- ① 先行学習（予習）・復習の両方に活かすことが可能です。
- ② 文型や漢字を集中的に学習することで、少し自信を持って、母学級での授業に参加できる状況を作り出す。

だい しょう がいこくじん じ どうせい と きょういく
第5章 外国人児童生徒教育コーディネーター
してん つた
の視点から伝えたいこと

※ 『外国人児童生徒教育推進のためのガイドライン』P19～21を参照。

日本語教育で使われる知識・技術を取り入れると、子どもとの交流を通じた学びが生まれます。学校内の「共通言語＝日本語」と捉え、コミュニケーション場面を増やしましょう。

日本語で交流することは、多文化共生社会における「共通語としての日本語」の使い手になることも意味します。

【1】“全ての教師が日本語教師”という意識で

日本語指導を担当している人だけが日本語を教えるわけではありません。学校生活のあらゆる場面が日本語を教えるチャンスです。三重県内どの学校でも、外国につながりを持つ児童生徒の指導を担当する可能性は、非常に高いと言えます（在席率では、全国の上位です）。

子どもたちにとって、学校は日本語を習得する最大・最良の場所であるという視点に立ち、指導にあたるのが大切です。授業だけでなく、あらゆる学校生活の場面を活かし、日本語の習得につなげていきましょう。

【2】「場面シラバス」「機能シラバス」の観点から

例えば、教室で先生からコンパスを借りるとき、

子ども： ×「コンパス。」
×「コンパス、借りるで。」

と発話をした場合、「依頼の表現」を指導する良い機会です。

さきほど はつわ あらた か き ぼ めん いらいぶん はつわ ひと
先程の発話を改め、下記のように、場面にあふさわしい「依頼文」を発話させることで、人に

なに たの なに いかた けいけん
何か頼むときは、このような言い方をするのだと経験させてみるのです。

子ども： ○「先生、コンパスを貸してください。」

○「先生、コンパスを借りてもいいですか。」

テキスト・ノートを使って机に向かわなければ、日本語の勉強はできないという考えは、

あらた
改めましょう。

ば めん じゆぎょう ろうか もくひょうげんご
場面シラバスとは、「授業」「廊下で」など、目標言語
【日本語】が用いられる場面や場所で使用される語彙
ひょうげん ちしき こうせい
や表現、知識などから構成されるものです。



※ きのう ぶん きのう あつ
機能シラバスとは、文の「機能（はたらき）」を集めたものです。

たとえば、^{ほか}「他の人^{ひと}に何か^{なに}を頼む^{たの}（～てください。）（～ていただけませんか。）」

「誘^{さそ}う（いっしょに～ましょう。）（いっしょに～ませんか。）」

「謝^{あやま}る（すみません。）（申し訳^{もう わけ}ありませんでした。）」 などです。

【3】理解の確認

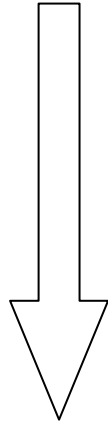
にほんご きょうか がくしゅう きょうしつ ちゅうい よてい はな
日本語や教科の学習をしているときや教室で注意や予定について話している

とき、「分かりましたか。」「分かった。（?）」と口癖^{くちぐせ}のように言う人がいます。

かくにんほうほう ひてい こうとう つた ないよう りかい
この確認方法を否定するのではありませんが、口頭で伝えた内容を理解したかどうか、

かくにん ばあい しつもん ちょうかい のうりよく かくにん
確認したい場合は、質問することによって聴解（リスニング）能力の確認ができます。

(例) [伝達内容] 来週らいしゅうの土曜日どようび、6月15日がつ にち がっこうは学校がっこうがあります。ただし、給食きゅうしょくは無いので、その日ひは、弁当べんとうが要いります。放課後ほうかごのクラブ活動かつどうはないので、6時間目終了後じかんめしゅうりょうご、速すみやかに下校げこうします。



先生せんせいが、子どもこに下したのような質問しつもんをすることで会話かいわによって伝わつたったかどうかかくにんの確認かくにんができます。



先生せんせい：「来週らいしゅうの土曜日どようび、学校がっこうがありますか。」

子どもこ：「はい、あります。」

先生せんせい：「その日ひは、給食きゅうしょくがありますか。」

子どもこ：「いいえ、ありません。」

先生せんせい：「給食きゅうしょくがないので、何なにを持もってきますか。」

子どもこ：「弁当べんとうです。」

先生せんせい：「6時間目じかんめが終わおったら、どうしますか。」

子どもこ：「クラブをかえしないで、帰かえります。」

【4】単語たんごの獲得かくとく

日本語にほんごがまだ初級しょきゅう前半ぜんはんレベルで、学校内がっこうないにある事物じぶつの名前なまえがあまり分わからない子どもこに対して、実物じぶつを指さしながら、ゆっくり3回かい (例)「ちりとり、ちりとり、ちりとり。」と聞きかせます。その後あと、ジェスチャーでリピートうながを促ばすことで、その場ばでリピート練習れんしゅうができます。

先生：「ちりとり。」（リピートを促すジェスチャーをして）

子ども：「ちりとり。」

もちろん、名詞以外の「形容詞」「形容詞」「動詞」「副詞」も上記のように、導入できます。

【5】周囲の子どもたちへの啓発

外国人児童生徒が学校にいることは、日本人の子どもたちにとって、多文化を学ぶ良い機会です。お互いに学び合う関係作りができるように、子どもたちを導いていきたいものです。

⇒ 英語以外の外国語に触れ、多様な文化・習慣・価値観に触れることができます。

将来に向けて職業人生を主体的に構想・設計
するキャリア・デザインを描かせる指導

母語の能力

+

日本語の能力

+

英語の能力

+

多様な文化を理解する能力

→ まさに21世紀の世界が求める人材に当てはまる

将来なりたいもの・やりたいこと・あこがれる職業などを早い時期に、具体的に目標として掲げることができる児童生徒は、高校入試や大学入試で成功につながりやすい。

そのためには、本人の価値観形成が重要です。（ただし、保護者の価値観が大きく

影響を及ぼすことにも注意が必要です。）

中学生になると、色々な面で指導に“難しさ”が出てくるとおもいます。たとえ、今があまり

良くない状況でも、諦めずに勉強を続けることの重要性を説くことです。そして、高校

で学ぶチャンスが得られれば、大きく才能を開花させる子どもたちをたくさん見てきました。学

習環境が人間を育てる良い例です。

しょうがっこう ちゅうがっこう ちゅう き もくひょう こうこうにゆうし とっ ぱ た ほうめん かつやく がいこくじん
小学校・中学校における 中期目標は「高校入試の突破」です。多方面で活躍する外国人

せんぱいがた こえ いちばんせつとくりよく も し
の先輩方の声が一番説得力を持っているのかも知れません。

ちいき かつやく みちか ひと たいけんだん き
地域で活躍している身近な人たちの体験談を聞
くことも大切です。キャリアガイドDVD I・II を
かつよう
活用しましょう。



さんこうしりょう
※参考資料

- ・キャリアガイドDVD
- ・DVD『どこでもだれでも日本語指導「日本語指導の基礎」4巻「教科指導に結びつく日
ほんごしどう
本語指導』』

かい とう へん
解 答 編

● 問 8

らいねん せいとかい やくいん おも ひと い
来年、生徒会の役員になりたいと思っている人に言います。

ご ご じ せいとかい やくいん しつ き
午後3時に生徒会役員室に来てください。

● 問 9 ①

パウロさん、これを持ってください。一緒に理科室へ行きましょう。

② カバンを開けてください。漢字のノートを出してください。

はい、このノートです。昨日、漢字を書きましたね。

● 問 10 ①

あした、学校が終わってから、(7時に) ○○さんの家へ行ってもいいですか。

② (カレンダーを使って) ○月○日土曜日は学校があります。

お父さんやお母さんが学校へ来ます。○○君・○○さんの勉強を見ます。

給食がありません。弁当が要ります。土曜日、雨が降れば、外で体育をしません。

体育館でします。

③ 仮に通訳の方がいても、翻訳できないものが多いので省略したほうが望ましい。

外国人児童生徒教育に係る外部支援員等研修テキスト

発行 平成26年3月

三重県教育委員会事務局小中学校教育課

TEL 059-224-2963